



守ろう三京川! 水生生物観察会

徳之島ダムが貯水を始めたのは平成23年(2011年)、**通し回遊**(とおしかいゆう)=川と海を行き来する水生生物がどのように変化したのでしょうか。天城町教育委員会では平成29年(2017年)から、三京分校のすぐ下を通る三京川で、観察会を兼ねた定置網による調査捕獲をしています。今年は残念ながら、新型コロナ防止対策で子供たちは参加できませんでしたが、調査は実施。なお、秋利神川の中・上流域に住む主な通し回遊の生物は、オオウナギ、クロヨシノボリ、ボウズハゼ、ヤマトヌマエビ、ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、モクスガニなどです。

※キバラヨシノボリ種群は、アユのように海で育って川に上るクロヨシノボリが、離島各地で陸封・進化した種。ダム完成から年月が過ぎ、クロヨシノボリの生息、遡上が途絶えたと想定しています。



在来種



海と行き来するボウズハゼやヒラテテナガエビが捕獲されなくなったのに、小さくて一見弱そう? ヤマトヌマエビは減っていません。ダムを超えられない生物ばかりではないのです。逆に、キバラヨシノボリは、ダムのおかげでクロヨシノボリが居なくなり、繁栄しているようです。なお、キバラヨシノボリは、鹿児島県の条例により捕獲禁止です。



侵略的外来種ワースト100
アメリカザリガニ

外来種



オйкаワやアメリカザリガニのほか、コイ、テラピア、川辺にはアメリカハマグルマ(植物)なども見られ、上流に近い水域にも、しっかり根付いてしまっています。なかでもコイは三京分校より上流でも見られ、共食いもする大型の捕食者なので、影響が心配されます。

これまで、島にはなかった巨大な湖が、徳之島ダムです。人工物だから自然に優しくないとはいならず、新しい環境に適応して増える種もあります。ヤマトヌマエビが上流の水源地周辺まで上っているの、ターガンことモクスガニを、ダムより上流で見かけなくなったのは、ダムの居心地がいいので、上るのをやめてしまった...という可能性もあるようです。もっと上流や、ダムでも追加調査する予定です。

新たな生態系!?



見なくなったと言われるモクスガニ



もっと情報が見られる
電子版はこちら

